

えいらい

No.11

平成24年1月発行
発行元/財団法人永頼会 松山市民病院新年号
2012〒790-0067 愛媛県松山市大手町2丁目6-5 TEL/089-943-1151 FAX/089-947-0026
発行責任者/院長 山本祐司 編集/松山市民病院広報委員会

年頭挨拶

～連携と充実・新S棟建設をはずみに～



院長 山本 祐司

2012年の新春を迎え、今年が健康で希望ある年になりますよう、心からお祈り申し上げます。地域の医療機関や関係各位の皆様、日ごろより救急医療や地域連携を通じて大変お世話になり有難うございます。

昨年、東日本大震災やタイ洪水、イスラム圏民主化革命、ユーロ信用不安と記録的円高、そして北朝鮮金正日の急死など、記憶に残る世界的な出来事が続きました。日本では、野田民主党政権が社会保障費の伸びを抑制し、消費税率アップという一体改革でもって、財政再建を図ろうとしています。公務員や議員定数削減など自らを律する努力や、景気浮揚対策などは後回しにされている感があり、民間であれば彼らは破産会社の社員と役員であろうと皮肉られています。国の重要政策では与野党のなじり合いは止めて、超党派や全員参加型でスピーディに政策統合し実行して欲しいものです。

医療界では、昨年末、平成24年度の診療報酬の改定率が決定し、0.004%という厳しいものになりました。内訳では診療報酬本体が+1.38%、薬価は-1.38%で全体(ネット)で±0%でした。救急、産科、小児、外科等の急性期医療、がん・認知症、医療と介護の連携や在宅医療などが重点項目のなかに言及され、医科本体は何とか+1.55%なのが救いです。中身をよく吟味し、医療事務部や薬剤部などで適切な対応を準備したいと思えます。

松山市民病院では、昨年は「協働と前進」というスローガンで、各種地域連携バス、四週六休シフト勤務制、部課長制昇格人事、職員制服新調や再来受付機設置など、職員が「協働」作業し、一定の「前進」を得た一年でした。今年も、がん連携推進病院認定や、院内保育所開設

など前進いたします。また、今春の新卒採用では、初期研修医は基幹型・協力型あわせて10名、看護師・薬剤師・理学療法士などは計35名を内定し、人材確保では明るい見通しになっています。

さて、新S棟建設工事は、昨年末、詳細設計・施工一括にて清水建設に落札決定しました。耐震化補助金が活用され、地上7階建て免震構造にて、本年3月着工、3年後の2015年3月竣工予定となりました。その間、仮設・解体工事を重ね、これまでどおりの診療を続けながら、二期に分けて完成いたします。

今年は、「連携と充実」をスローガンに掲げます。「病診連携、連携バス、医療と介護の連携」のように、各医療人が互いの役割(ポジション)を尊重(リスペクト)しながら、サッカーのゴールを目指すように、全員参加型で「連携」プレーする。ロングパスやスルーパスなど、いろんなパスまわしがあるでしょう。新S棟建設をはずみに、各職種が質やレベルを高め、「充実」して欲しいという願いであります。IT業務など電子カルテへのスムーズな移行ができるよう職員の「やる気」が求められます。具体的には新しく導入準備中の経営管理手法BSC(Balanced Scorecard)の活用を期待したいと思います。

龍は、色んな経験を食べて(糧にして)、大きく成長し天に昇る架空(理想)の動物とされています。辰年である今年は職員一同、そんな龍のように大きく成長できますように、地域医療の「連携と充実」に努めたいと思えます。関係各位の皆様と松山市民病院との交流・連携を宜しく願いし、年頭の挨拶とさせていただきます。